指文字結合手話の評価

長谷川洋*・矢沢国光**・松本雅美**・高岡芳江**，森法子**，吉村伸**
(*筑波技術短期大学電子情報学科・**中途失聴・難聴者に適した手話研究会)

要　旨：現在の手話の語彙不足を補うため全日本聾唖連盟などでも新しい手話を開発しているが，その際の有力な造語法として指文字結合手話がある。実際の手話を見ると分かりやすいものとそうでないものがある。指文字結合手話をその構成により分類し，それぞれの手話の分かりやすさとその理由をモニターにより調査し，それを分析して指文字結合手話の創作における原則を明らかにした。
キーワード：手話，指文字結合手話，中間型手話，日本語対応手話，聴覚障害者

1．研究の背景

現在中途失聴・難聴者のように日本語を基盤とする聴覚障害者が広く用いている手話は，中間型手話（PSJ, Pidgin Sign Japanese）である。中間型手話の場合は，音声と一緒に用いることができるし，読み取りも無理がない。日本語を基盤とする聴覚障害者にとっては，更に日本語に対応した手話の方が使いやすいが，日本には成人聴覚障害者のための日本語対応手話はまだない。栃木ろう学校が中心になって開発した同時法的手話があるが，これは日本語を習得していない聴覚障害児の教育を念頭において作られたもので，すでに日本語を習得している成人聴覚障害者にはあまり適していない。その理由は一部の手話が一般の手話と異なる点と意味レベルよりも音韻レベルでの表現が強いことであり，すでに手話を取得している人の立場やろう者とのコミュニケーションの保持を考えると少し無理がある。

一方アメリカでは，数種の英語対応手話（MCE, Manual Coded English）が開発されているが，聴覚障害児の教育のために開発され，成人聴覚障害者にはあまり使われていないという点では日本の場合と同様である。ただ一口にMCEと言っても，かなり幅があり，英語と音韻レベルで対応するものから意味レベルで対応するものまであって，中間形手話（PSE）と連続的に変化しているので，状況により中間型手話から更に英語に対応する方向に移動することが可能である。

日本の場合は，中間型手話では，大体は日本語と対応した形で用いられるが，日本語と対応させることが難しい部分が出てくるため，一部は別の表現に変えて表現しなければならない部分が出てくる。こうした部分はすでに日本語を習得していて，日本語が基盤となっている聴覚障害者や健聴者にとって手話の習得を困難にし，違和感をもたれる部分である。現在の中間型手話をもう少し日本語と対応する方向に幅を広げていくことができれば，こうした点でもっと中途失聴・難聴者や健聴者が手話を習得しやすく，使いやすくなるのではないか。私どもの研究は，こうした目的で5年前に開始された[1)]。

2．指文字結合手話を検討する理由

現在日本手話[注1]の語彙は，約4000と言われている。(アメリカの手話の数もほぼこの程度である)。この数は一般の日常会話に必要な語彙数と言われている15,000～20,000と比べてかなり少ない。全日本聾唖連盟でもこうした語彙数の不足を補うために“新しい手話”を開発している。

ただこうして日常会話に必要な1.5万～2万の手話をやみくもに作れば問題は解決するかというとそうではない。まずこのようにたくさんの手話を記憶することが困難になる。また手話は手で表現する以上，あまり細かな差異は区別できないし，手の自然な動きを無視した手話は使用に耐えない。したがって手話造語には限界があることが分かる。

手話を開発する上で，いくつかの基本的な原則がある。

1．現在の手話の表現の基本と一致していること。
(例えば，「過去」は後ろ，「未来」は前，知的な意味のときは「頭」，精神的な意味のときは「胸」または「腹」など)

注1)現在「日本手話」という言葉は，混乱して用いられている。2つの立場があって，1つは神田和幸氏たちが主張するいわゆる伝統的手話を指す立場であり，他の1つは全日本聾唖連盟が主張する日本で聴覚障害者が用いている手話のすべてを指すという立場である。筆者らは，後者の立場をとっており，いわゆる伝統的手話に対しては「日本手話言語」または「日本手話語」と呼ぶことにしている。

2．その手話から，概念的な意味が伝わること。
3．その手話から，対応する日本語が想起できること。

こうした点を考慮すると，指文字結合手話が有力な造語法として浮かび上がってくる。指文字結合手話は，ある基本となる手話があって，それと概念が似たいくつかの言葉に対する手話を指文字を付け加えることにより，分化させることができる。基本となる手話があるので，自ずと1，2は満たされている。また指文字を結合させることにより，その指文字を頼りに，対応する日本語を想起できるという意味で，3も満たされている。

アメリカのMCEの開発においても，指文字結合手話がたくさん作られた。例えば，ASLの「集団」を表す手話から，Family，Group，Class，Organizationなどの指文字結合手話が作られ，現在では逆にASLに取り入れられて使われている。

このような指文字結合手話は，日本の手話でも有効であり，実際に分かりやすく広く使われている指文字結合手話がたくさんある。(例えば,「エネルギー」「イメージ」「エイズ」など)。現在の手話では，ある言葉に対して対応する手話がない場合がたくさん出てくるわけで，日本語により忠実な手話の開発においては，この指文字結合手話は有力な方法である。記憶の負担の面でも，基本となる手話は少数であるから覚えやすい。

しかし中には分かりにくい指文字結合手話もある。どういう場合に分かりやすく，使いやすい手話となり，また逆に分かりにくくなるかを整理しておくことが手話の創作にとって大切である。本稿では，既存の手話の中から指文字結合手話を抽出し，その表現法を分析，整理し，指文字結合手話にとって必要な原則を示した。

3．指文字結合手話の分類

分析を系統的に行うために指文字結合手話を分類する必要があるが，手話の構成形態により，次のように分類した。

(1) 指文字だけで表すもの
　a，一文字だけで表すもの
　b，同じ指文字を両手で同時に示すもの
　c，片手で2文字を継時的に示すもの
　d，両手で2文字を継時的に示すもの
　e，片手で2文字（または3文字）を同時に示すもの
(2) 指文字＋手話（指文字を先に示して，次に手話を示すタイプ）
(3) 手話＋指文字（手話を先に示して，次に指文字を示すタイプ）
(4) 手話・指文字（手話と指文字を同時に示すタイプ）
(5) 手話の一部を指文字1文字で置き換えるタイプ
(6) 手話の一部を指文字2文字で置き換えるタイプ
(7) 枠記号・指文字（左手で枠記号，右手で指文字を同時に示す）

4．指文字結合手話の分析

まだ研究は中途であるが，これまでの分析から判明したことを述べる。

対象とした手話は，全日本聾唖連盟出版の「わたしたちの手話」1～10巻[2]，「新しい手話」Ⅰ，Ⅱ[3]，手話コミュニケーション研究会出版の「新・手話辞典」[4]に掲載されている範囲とした。「新・手話辞典」は多くの手話を造語しているが，指文字手話を多く取り入れている。この中から，指文字を用いた手話を抜き出し，それを分

表1

	出　典	評　価	理　　由
～部	C-415	○	従来もなにげなく使っていた
～個	C-156	○	〃

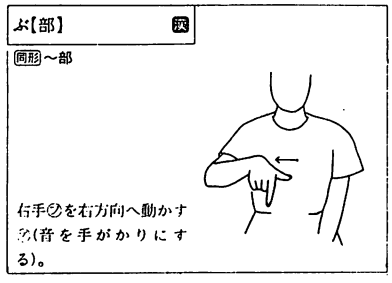

図1

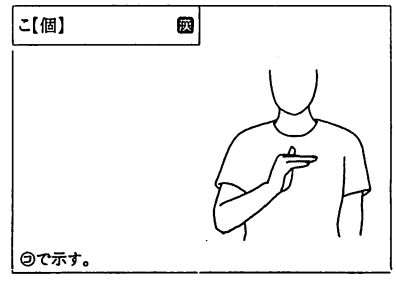

図2

類し，４人の聴覚障害者と一人の手話に堪能な健聴者に対して，手話として分かりやすいかどうか，それは何故なのかを書いてもらって，整理した。

４．１　指文字だけで表すもの

a)１文字だけで表すもの

（表１，図１，２）

これは，すべて１文字の言葉を表す場合で，単なる指文字であって手話と言えるかどうか疑問もあるが，指文字１字でも「課」のように指文字「カ」で表すことが定着しているものもあるので，検討の対象とした。

１文字を指文字で表すのであるから，自然な方法とは言えるが，“意味”を一切示さないという意味では手話と異なった面をもっている。したがって，前後の関係から明確に意味が想像できる場合しか使えない。表１の２つは今までも自然に使われており，問題がなかった。

b)同じ指文字を両手で同時に示すもの

（表２，図３，４）

｛ルール｝は好評であったが，｛かなう｝は不評であった。「ルール」はたまたま「ル」－「ル」と同じ文字からできており，書いたものと同じように読み取れるし，

表２

	出　典	評　価	理　　由
ルール	A-8-190 B-1-96 C-518	○	見やすく，読みとりやすい
かなう	C-94	×	両手㋕で中指の先をぴたりと合わせるのが難しい 言葉のイメージもしにくい

図３

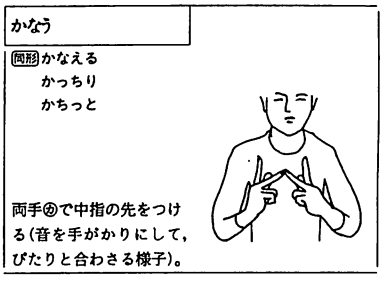

図４

表３

	出　典	評　価	理　　由
さて	C-187	○	右へ動かしながら表すほうが楽
ストライキ	A-3-29	○	｜言葉のイメージがしやすい
ケースワーク	A-10-47	△	

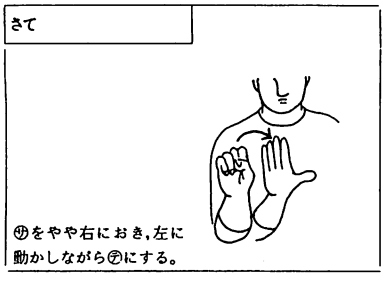

図５

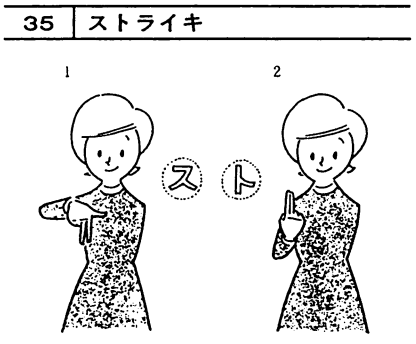

図６

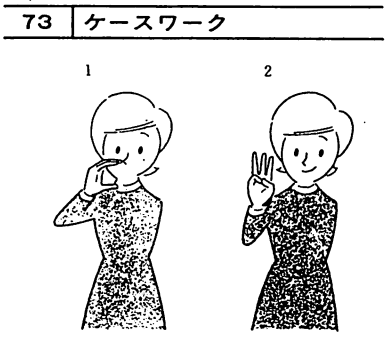

図７

手話表現上からも同じ指文字を両手で表現することは容易であるし，今までにない斬新な表現で分かりやすい。一方「かなう」は，「願いがかなう」とか「彼にかなう者は居ない」とかいう形で使われるが，そうした意味がこの手話からイメージしにくいし，手話表現上も両手の中指をぴたりと合わせるのがやや難しい。

c)片手で２文字を継時的に示すもの

（表３，図５～７）

「さて」「ストライキ」については，「さて」「スト」と２文字でも表される言葉であるので，指文字２文字で表現することが不自然でない。｛ケースワーク｝は，英語のアルファベット指文字が用いられているという意味で，他の指文字結合手話とは異なる面をもっている。[Ｃ]の指文字は少し馴染みが少ないが，[Ｗ]は，[ワ]と同じであるため馴染んでいる。また「ケース」という言葉が「Ｃ」から始まっていることを知っている人とそうでない人とでも受け取り方が違ってこよう。

d)両手で２文字を継時的に示すもの

（表４，図８）

この例としては，｛どっと｝があるが，あまり好評ではない。一つは「ド」＋「ト」ではなく，「ド」＋「ウ」となっている。もう一つはたくさんのものが押し寄せる感じが少し弱い点もあろう。

e)片手で２文字（または３文字）を同時に示すもの

（表５，図９，10）

片手で指文字を２文字または３文字で表すのは，ごく限られている。アメリカの手話で，“I LOVE YOU”を“Ｉ”＋“Ｌ”＋“Ｙ”の３つの指文字を片手で表現するものが有名である。日本では「ＷＣ」を“Ｗ”＋“Ｃ”を片手で表現する例があり，すでに広く普及している。一方｛ウイルス｝は「ウ」＋「イ」＋「ル」の３文字を同時に示す形で，工夫のあとが伺える手話である。この手話はアメリカの“I LOVE YOU”の手話と少し似ているが，薬指を少し動かす形にすれば，「虫」のイメージも出て

表４

	出　典	評　価	理　　由
どっと	C-338	×	言葉をイメージできない

図８

表５

	出　典	評　価	理　　由
ウイルス ＷＣ	C-36 C-327	× ○	他の手話とまぎらわしい わかりやすい

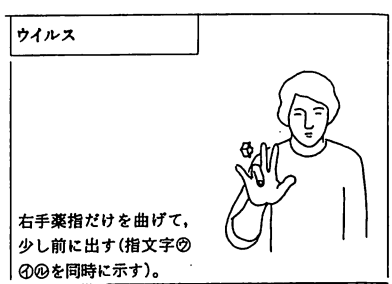

図９

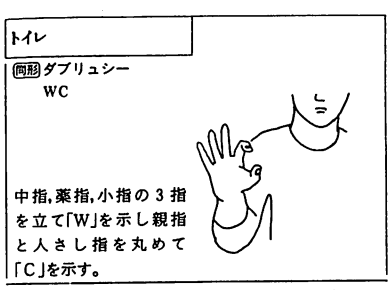

図10

きてよい手話となる可能性もある。

4．2　指文字＋手話（指文字を先に示して，次に手話を示すタイプ）

（表6，図11～13）

このタイプの指文字結合手話は数も多いし，分かりやすい。これは最初に指文字で言葉がその文字で始まることを示し，その後で意味を表す手話が来ることで，言葉を特定しやすいからと思われる。こうした手話の中で，分かりにくいとされたものは少ないが，「議案」の場合は，「議」を指文字で示すことが問題ではなく，「案」が一般の｛案｝の手話と異なって，｛提示，示す｝となっている点が言葉を想起しにくくしている。

4．3　手話＋指文字（手話を先に示して，次に指文字を示すタイプ）

（表7，図14～16）

このタイプの手話は，比較的受け入れられている。この場合，4．2の場合と異なり，最初に指文字で示されるのは末尾の文字であるから，本来は4．2と比べて読みにくいはずである。しかし比較的受け入れられているのは，最初に示す手話がその言葉の大体の意味を表現しているので，最後の指文字が読唇の確認として用いられているからであり，最初の手話が「漢字手話」としての性格をかなり強く持っていることが成功する条件となろう。分かりにくいとされた「痴呆」は，「チ」から始まる言葉であるにも拘らず，最後に［チ］を示す点が抵抗をもたれたのであり，「倫理」は「倫」の漢字手話として｛エチケット｝の手話を用いることがまだそれほど確立していないことが原因であろう（「エチケット」の手話が他にも「礼儀・マナー・道徳・常識」などの言葉に対しても使われる）。

4．4　手話・指文字（手話と指文字を別々に同時に示すタイプ）

（表8，図17～19）

これは，「パソコン」「ワープロ」などに見られる手話で，一方の手で指文字を他方の手で手話を表現する。最近増えているが，比較的普及しており，抵抗は少ない。これは（2)のタイプの指文字結合手話で，手話の方が片手で可能な場合は，この形に移行しやすい。

4．5　手話の一部を指文字1文字で置き換えるタイプ

（表9，図20～23）

このタイプの手話も比較的多く，抵抗も少ない。このタイプは，前にも述べたようにアメリカの手話では，非

表6

	出　典	評　価	理　　由
アンケート	C-18	○	既成手話（A-3-182）より動作の経済性あり
くしゃみ	C-133	○	表情も豊かに表わせばさらにわかりやすくなる
ピラミッド	C-410	○	わかりやすい
のろま	C-371	○	〃
アクセル	C-5	○	既成手話（A-4-112）｝の場合，車の運転をしない人
ブレーキ	C-428	○	〃　（A-4-113）｝はわかりにくい
レポート	B-1-50 A-5-45	○	具体的でわかりやすい
理論	B-1-143 A-6-164	○	具体的でわかりやすい
議案	A-10-27	×	案は，既成の手話（A-9-164）の方がよい
保証	A-3-36	○	具体的でわかりやすい

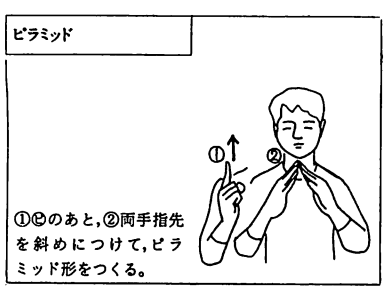

図11

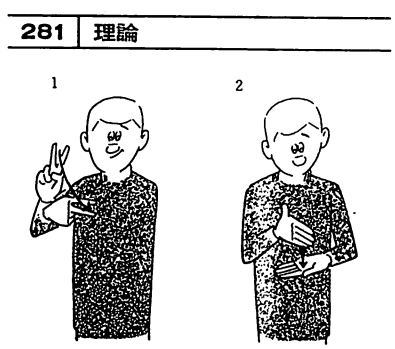

図12

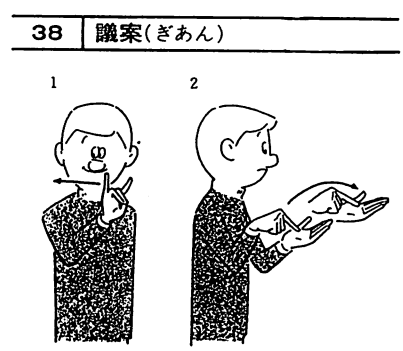

図13

常に多い。(例：「集合」の手話の一部を指文字に置き換えてFAMILY, GROUP, CLASS, ORGANIZATIONなどの手話をを作った)。日本の指文字は，動きを伴うものが多いため([ヌ][ノ][モ][リ][ン]と濁音・半濁音。アメリカのアルファベット指文字では，「j」「z」のみ)，こうした手話の作成はかなり制限される。しかしうまく指文字と手話が一体となった手話は，分かりやすく，{資料}{課題}などは広く用いられている。こうした中で，分かりにくいとされた{知識}(新・手話辞典)はすでに普及している手話があること，{知識}と頭の結び付きは自然であるが，胸との結び付きは不自然であることも関係していよう。やや分かりにくいとされた「役立つ」は，中途失聴・難聴者の間で，すでに{役}＋{立つ}という形の手話表現が普及していることもある。同じく

表7

	出　典	評　価	理　　由
痴呆	C-296	×	指文字＋手話のほうがわかりやすい
倫理	B-Ⅱ-133	×	〃
意義	A-9-161	○	手話でだいたい意味がわかり指文字が確認の役目
心理	A-5-99	○	
権利	A-1-48	○	
管理	A-4-204	○	
論理	A-6-164	○	

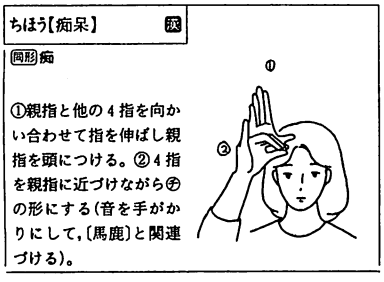

図14

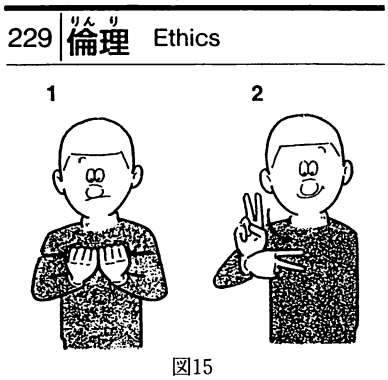

図15

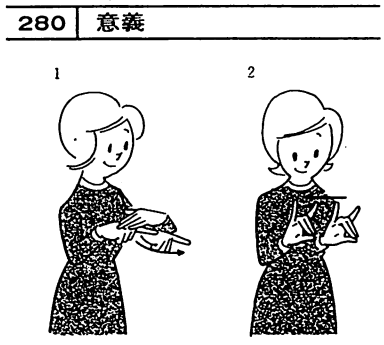

図16

表8

	出　典	評　価	理　　由
パソコン	B-Ⅱ-124	○	わかりやすい
ワードプロセッサ	B-10-40	○	わかりやすい
～戸（こ）	C-156	○	(屋根・㋙) 覚えやすい
寮	C-515	○	(屋根・㋚)　〃

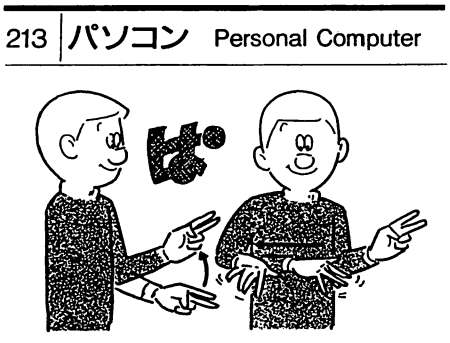

図17

図18

図19

やや分かりにくいとされた｛付録｝は手を左右逆にした方が分かりやすいという意見が出ている。これは強手(注目される方の手）の方に，指文字がないと分かりにくいことを示している。

4．6　手話の一部を指文字２文字で置き換えるタイプ
（表10，図24～26）

２文字または３文字からなる言葉を，２文字の指文字を手話の中に組み込むタイプのものである。「虹」は好評である。「詐欺」は片手より両手で表現した方が分かりやすいが，このままでも使える手話である。一方「～くせに」については，［ク］が寝ているので理解しにくいという意見が出ている。｛けれども｝という手話が［ク］の形で終了したときに［ク］の形が残るので，｛けれども｝＋［ニ］という表現の方が分かりやすいかも知れない。

4．7　枠記号・指文字（左手で枠記号，右手で指文字を同時に示すタイプ）
（表11～15，図27～34）

このタイプの手話は，「新・手話辞典」で動物や植物，国，時代などの群を構成するものを表現する手話として提唱されている。これは左手で「動物（獣)」などを表

表９

	出　典	評　価	理　　由
案	A-9-286 B-Ⅰ-58	○	わかりやすい
エイズ	A-4-146 B-Ⅰ-58	○	わかりやすい
エネルギー	A-5-79 B-Ⅰ-102	○	わかりやすい
カリキュラム	B-Ⅱ-44	○	わかりやすい
メディア	B-Ⅱ-126	○	わかりやすい
ニュアンス	A-10-110 B-Ⅰ-134	○	指文字がついていることで従来の表わし方 よりわかりやすい（従来の表現は「雰囲気」）
アピール	B-Ⅱ-127	○	〃　（従来の表現は「表現」）
めど	B-Ⅱ-158	○	〃　（従来の表現は「見通し」）
意見	C-23	△	既成手話（A-2-225）より動作が少なくて楽 一つにまとまったことでイメージしにくい面もある
いきさつ	C-22	○	具体的でわかりやすい
言語	C-153	○	〃
しかし	C-197	○	既成手話（けれども A-1-215）をよりわかりやすくした感じ
うっとうしい	C-41	△	使いやすいが覚えにくい
どんより	C-345	△	使いやすいが覚えにくい
知識	C-294	×	既成手話（B-Ⅱ-130）のほうがわかりやすい
役立つ	A-4-217 B-Ⅰ-158	△	「役」＋「立つ」のほうがわかりやすいのでは？ 覚えれば，動作が一つなので楽だが
資料	A-7-156 B-Ⅰ-157	○	㋣は横にせず立てた方がわかりやすい
付録	A-10-167 B-Ⅰ-178	△	左右の表現が逆のほうがわかりやすい 左手㋐・右手人差指→左手人差指・右手㋐

図20

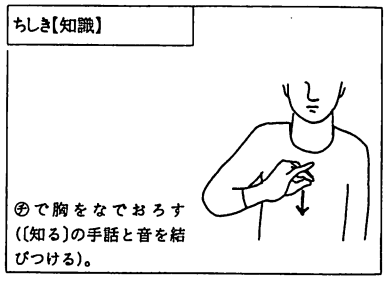

図21

図22

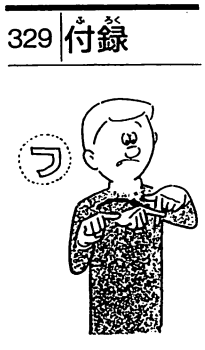

図23

す枠記号を表現し，右手の指文字で（例えば［ト］）その中の一つ（「となかい」）を特定して表現するものである。この方法は，左手である漢字の偏や旁をある手指記号で表し，右手の指文字で読みの一部を示す形で，漢字手話の創作にも使われている。枠記号が手話の場合は(4)になり，薬などの名前を表す場合は｛薬｝＋指文字となっている。しかし枠記号は，一般には手話ではなく，手話まがいのもの（手話を省略，変形させたもの）か，新し

表10

	出　典	評　価	理　　由
にじ	C-357	○	わかりやすい
詐欺	C-181	△	片手でなく両手で，あるいは，指文字を横に表わしたほうがわかりやすい
～くせに	C-134	×	㋕の手のひらが下になって理解しにくい手話になっている

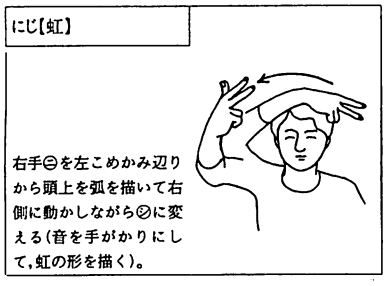

図24

図25

図26

表11

	出　典	評　価	理　　由
虫の手話	C-540	○	便利でわかりやすい
獣の手話	C	○	便利でわかりやすい
野菜の手話		×	枠記号から野菜を想起できない
鳥の手話		×	枠記号から鳥を想起できない

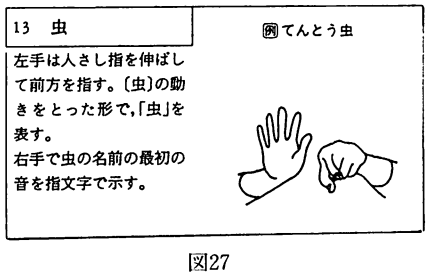

図27

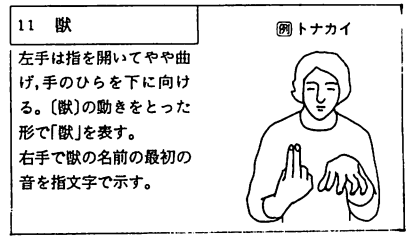

図28

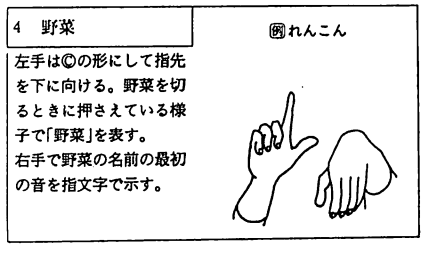

図29

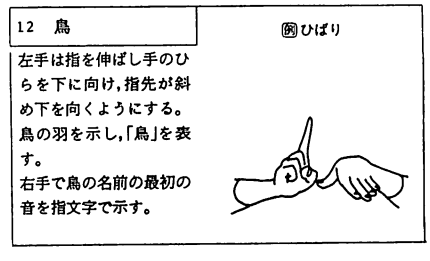

図30

木へんー左手の手のひらを立て，木へんに見立てる　　表12

	出　典	評　価	理　　由
格 杉 桑	C-82 C-235 C-144	△ △ △	従来の手話では木へんを人差指で示していたので（例えば「杉」），少し混乱するが，慣れれば使える

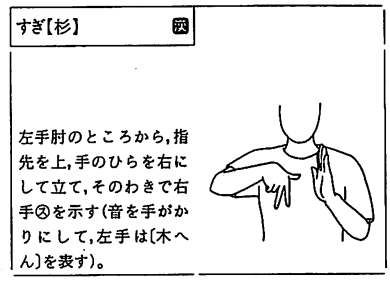

図31

しんにゅうー左手㋖の形でしんにゅうに見立てる　表13

	出　典	評　価	理　　由
運 遇 途	C-46 C-130 C-326	× × ×	部首が覚えにくい

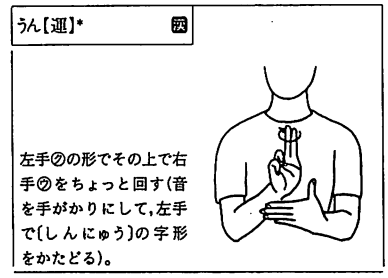

図32

にんべんー左手人差指でにんべんに見立てる　　表14

	出　典	評　価	理　　由
俗	C-263	×	部首が覚えにくい

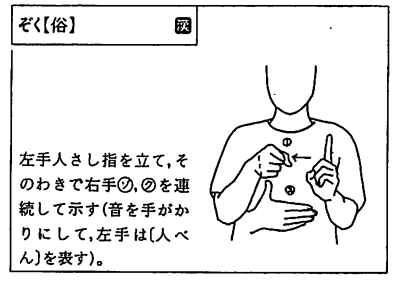

図33

金へん－左手にぎりこぶしを金へんに見立てる　　表15

	出　典	評　価	理　　由
鉄	C-320	×	部首が覚えにくい
鉛	C-352	×	

図34

く創り出したものである。この方法は，動物名のように非常にたくさんの名前がある場合にその全ての手話を作るのは大変であるし，また覚えられないという意味でも有力な方法である。ただポイントとなるのは枠記号がどの程度その群の特徴を表しているかであり，これがあいまいだと理解できないことになってしまう。その場合にこの方法の辛いところは，枠記号を片手で表さなければならないことであり，片手ではどうしても表現に限界がある。「花」「草」「果物」「獣」「虫」「時代名」などは，既存の手話の形と似ているので，分かるのではないかと思われるが，「樹木」「野菜」「豆」「海草」「鳥」「国名」などは既存の手話と異なっているし，この形だけを見ても手がかりになり得ない面がある(表11，図27～30)。「化粧品」は｛鏡｝を枠記号として示すことで，手がかりとなっている。

一方「新・手話辞典」では，漢字手話の造語法として，偏（へん）や旁（つくり）をある手指記号で表現し，読みを指文字で示す方法も見られるが（表12～15，図31～34)，この場合も手指記号がその「へん」や「つくり」を想起させる場合は，よい手話となるが，その手指記号から「へん」や「つくり」が想起できないときは，ほとんど理解できない手話となってしまう。現在のところ「木へん」「しんにゅう」「にんべん」「金へん」など，いずれも「へん」が想起しにくい。またこの漢字手話での指文字であるが，漢字に2種以上の読みがある場合，読みによって指文字を変えるかどうかという問題も残される。

この群を示す手話表現については，全てが「枠記号・指文字」というパターンとはなっておらず，どうしても枠記号を両手で示さなければならないときは，「指文字＋手話」または「手話＋指文字」のパターンとなっている。この項では，「枠記号・指文字」のパターンだけを取り上げた。

5．まとめ

以上のように，「わたしたちの手話」「新しい手話」「新・手話辞典」に掲載されている指文字結合手話を分析してきたが，この分析から指文字結合手話が聴覚障害者（日本語を基盤とする聴覚障害者を考えている）に受け入れられるための条件が浮かび上がってくる。これをまとめると

1．指文字と組み合わせる手話（または枠記号）が適当であること

指文字と組み合わされる手話（または枠記号）は，その言葉の概念を表しており，それが指文字で特定化されるわけで，その概念を表す手話が適当でないと，指文字を示しても言葉を類推できないため理解できないことになる。

（良い例）：アッピール，案，イメージ，エイズ，サークル

（分かりにくい例）：メーカー，知識（新・手話辞典）

2．注目される方の手（強手）に指文字を示すこと

指文字は手話と違って，ぼんやり見ていると，見落としたり，見間違えたりしやすい。そこで自然と目が行く手の方で示すことが大切となる。自然と目が行く手とは，動きのある手であり，逆に動きの少ない手で示した指文字は実際は見られていないことが多い。

（良い例）：カリキュラム，レーダー

（分かりにくい例）：付録，めど

3．指文字がはっきり示されること

指文字が認識されるためには，表示する方向や角度がある一定の範囲になければならない。例えば，「シ」を

手の掌を下向きにした場合は，もはや「シ」と認識するのは困難である。「マ」は指先が下向きであり，左向きになれば「ミ」となる。

（良い例）：アッピール，案，イメージ，エイズ，サークル

（分かりにくい例）：資料，マニュアル

4．言葉の文字の順番と指文字を出す順番は一致していること

「指文字＋手話」のときは言葉の頭の指文字を示し，「手話＋指文字」のときは末尾の指文字を示すことが大切である。後者の場合，指文字が頭の指文字の場合は，読み取りのときに混乱することになる。

（良い例）：レポート，理論，意義，権利

（分かりにくい例）：倫理，痴呆（新・手話辞典），

こうした基準とは別に，手話として成功したものには，これまでの手話と比べて表現法が斬新で，その言葉がすぐ浮かんでくるようなものがある。例えば，「ルール」，「メディア」などである。表現も楽で，分かりやすい。手話にはまだまだこうした新しい表現法が残されていることが分かる。こうした点が手話を創る立場としては，何よりの楽しみであろう。しかし実際に手話を創る立場になると，その大変さは並み大抵ではないし，実際に発表されてもなかなか普及しないままの手話も多い。言葉というものは，それが自然であって，良いものは知らず知らずのうちに広がっていくし，駄目なものはいずれ消えていく。長い期間にわたって，少しずつよい手話が蓄積されていくことにより，手話が豊かになっていく。手話を創る人達はそうした無駄を覚悟しなければならないが，一つでも二つでも後世に残る手話があれば，努力が報われるのではなかろうか。

参考文献

1）田中順，長谷川洋他，「中途失聴・難聴者に適した手話の研究－短期研究のまとめ」，東京都中途失聴・難聴者協会発行（1992）

2）全日本聾唖連盟，「わたしたちの手話」1～10巻，全日本聾唖連盟（1969～1986）

3）全日本聾唖連盟，「新しい手話－Ⅰ，Ⅱ」，全日本聾唖連盟出版局（1989，1992）

4）手話コミュニケーション研究会，「新・手話辞典」，中央法規出版（1992）